

## 【東京】

## 「中野レンガ坂」集客作戦 20年五輪控え駅周辺整備

2015年7月16日

細く、短く、勾配もある。中野区のJR中野駅南側にある「中野レンガ坂商店会」は、そんな不利な立地を魅力に変えて、客足を呼び込もうと必死だ。商店会がある中野三丁目エリアでは、東京五輪・パラリンピックのある二〇二〇年までに新たな駅改札や南北通路が整備され、周辺の回遊性が高まることに。エリア一帯の地域おこしの好機となる一方、素通りされかねない危機感もあり、地元町会とも連携して知恵を絞っている。(石原真樹)

レンガ坂商店会は、ビルとビルの上に延びる坂道の約百メートル区間に、約六十店が軒を連ねる。商店会長は、平日は住宅関連会社のサラリーマン、岡田俊彦さん(55)。かつて化粧品店を営んでいた妻の実家があることから、商店街活動を時折手伝っていたという。

商店会名にもなった異国情緒のあるレンガ坂も、イメージチェンジのため岡田さんが提案し、〇二年に実現した。

中野駅の開業は一八八九(明治二十二年)年。当時は、このエリアのすぐ目の前に駅改札があり、妙法寺(杉並区堀内)への参拝客のほか、駅北側に設営された陸軍鉄道大隊への乗降客でにぎわっていた。

ところが、一九二九(昭和四)年に駅改札が移動すると、状況は一変したという。

「サブカルチャーの聖地」とも呼ばれる中野駅北側に対し、駅南側の地域おこしを模索していた二〇一二年、駅西側に新たな改札と南北通路、駅ビルの新設が決定。中野三丁目エリアは駅前広場が整備され、桃丘小学校跡地などと合わせて土地区画整理事業が行われることになった。

一三年に商店会長になった岡田さんには、アクセス改善の一方で、再開発で全国どこにでもある駅前風景になってしまうのではないかと、との危機感もある。

そこで、地元の桃園町会理事の桜井幹男さん(65)、代表理事の日比久さん(66)らと「桃園町会まちづくりプロジェクト」を結成。駅前広場のデザインや小学校跡地への子育て施設誘致案などを練り、区や事業施行者の都市再生機構に積極的に提案することにした。

「駅ビルができて取り残されないように、小さくてもぬくもりのある商店街を目指したい」と岡田さん。

要となる地域資源の一つとして、同じ三丁目エリアにある劇場街「ポケットスクエア」とのコラボレーションにも取り組む。

区の担当者は「地域とコミュニケーションを取って整備事業を進めたい」と話している。



「お年寄りが『街がきれいになったね』と声をかけてくれる」と喜ぶ岡田会長＝中野区で